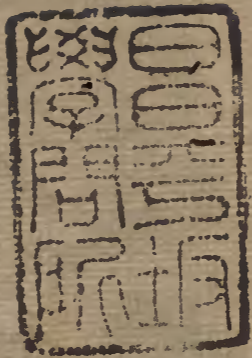


新類頌和歌集

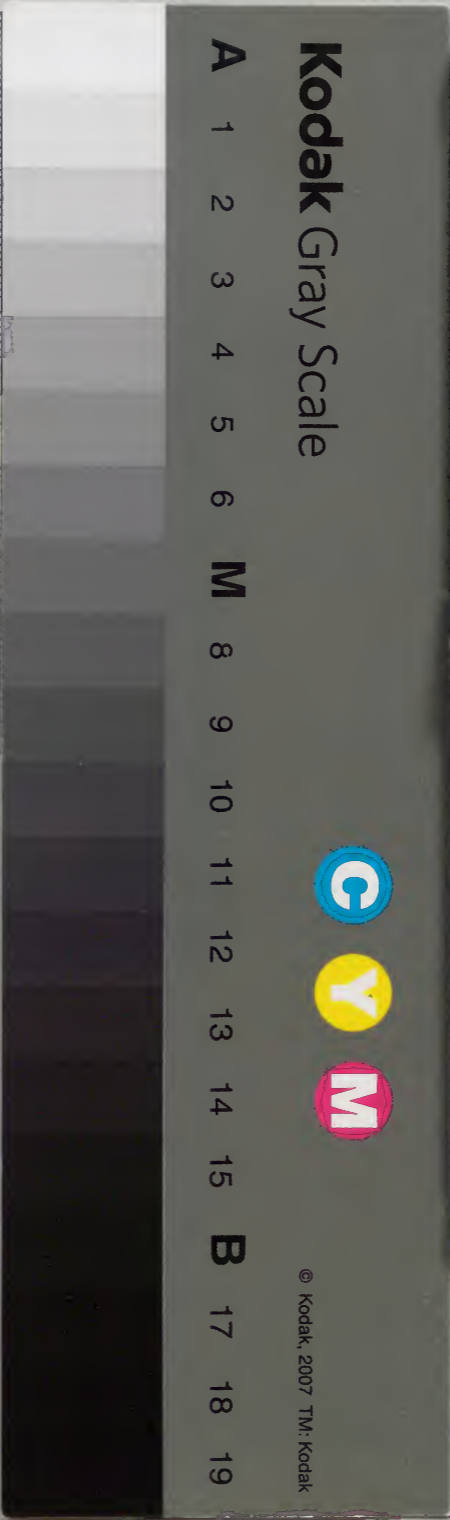
恋之下之上
亦四

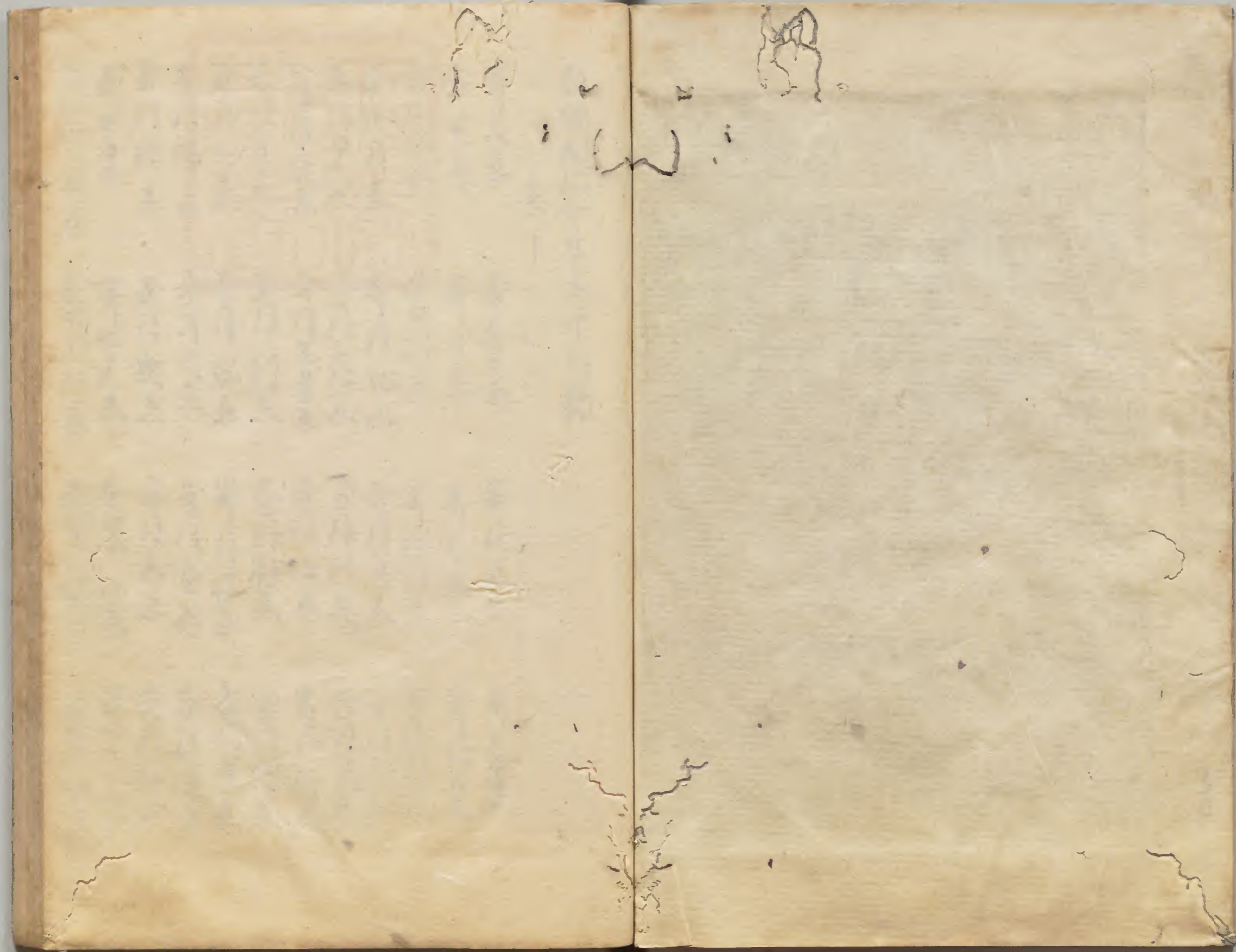


和書門	
二五九二號	類
六八函	
九架	
三〇册	

内閣文庫	
二五九二號	和書類
三〇册	
九架	
三〇册	

内閣文庫	
番號	和 25592
冊數	30 (24)
函號	201 15





類題如寄集惠下目錄

惠下

寄天恩

寄春天恩

寄秋天恩

寄天恩

寄空恩

寄日恩

寄去日恩

寄秋日恩

寄口恩

寄日初恩

寄初月恩

寄山月恩

寄強月恩

寄月得恩

寄月恩

寄月恩

寄月恩

寄月不恩

寄月初恩

寄月恩

寄月疑恩

寄月不恩

寄月初恩

寄月恩

寄月恩

寄月別恩

寄月初恩

寄月恩

寄月切恩

寄月狀恩

寄月初恩

寄月恩

寄月稀恩

寄月久恩

寄月恩

寄月恩

寄月難恩

寄月款恩

寄月恩

寄月恩

寄早恩

寄七夕恩

寄七夕初恩

寄七夕恩

寄七夕恩

寄七夕初恩

寄七夕恩

寄七夕恩

淺草文庫

寄名不浦志
 寄法常志
 寄宗不宿志
 寄宗不漢志
 寄近懐志

意下

寄天惠

位在杜
 伊集
 又四
 天安
 永三
 公家
 川八

あまのこころをいかに
 ちかほぬ物よふか
 物之いかに
 信之を流るる
 幸らるる
 かしは

胡尾
 秋長
 秋信
 道永

春天

秋天

天恩

空

由美川
 川
 永三
 公家
 伊集
 川八

いかに
 うらやま
 ちかほぬ
 ちかほぬ
 かしは

柳
 政
 秋
 秋
 秋

寄附の意

月見

月守

月新

月廿

月廿一

月廿二

月廿三

月廿四

月廿五

月廿六

月廿七

月廿八

月廿九

月三十

月三十一

月三十二

月三十三

月三十四

月三十五

月三十六

月三十七

月三十八

月三十九

月四十

月四十一

月四十二

月四十三

月四十四

月四十五

月四十六

月四十七

月四十八

月四十九

月五十

月五十一

月五十二

月五十三

月五十四

御所の四の御所... 秋の月

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

御所の御所... 御所の御所

寄月如急

永島山守
に書す

月歌

長書

月愛

文の九
石原

月希

長書

文の九
石原

月久

長書

文の九
石原

月遠

長書

月近

月新

月歌

月忘

長書
長書

ふしぬみ... 花色の云 云 條

か... 月 景松

と... 木を 松

月... 木を 松

人... 月 口

う... 松 口

か... 松 口

う... 松 口

か... 松 口

か... 松 口

か... 松 口

か... 松 口

か... 松 口

か... 松 口

か... 松 口

か... 松 口

寄月信云

天の九等
の宿が社に第

分るすやちんあつめの神とてしあつたあつた

言も
孝子
思

永三ハト
公家
子

人いりきし世は世は世は世は世は世は世は世は

却る

降葉
子
文
何
子
子

七ツのやぶらるるるるるるるるるるるるるる

作
作
作
作

子
子
子
子

月あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

培
培
培
培

七ツ、
七ツ切、
七ツ忍、
七ツ
七ツ
七ツ
七ツ
七ツ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

日
日
日
日
日
日
日

七ツを、

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

日
日
日
日

守河文毛

七ノ目

こつて短し

鐵如

城凡

赤葉

赤葉

赤葉

赤葉

赤葉

赤葉

あつたてのついでに... 守河文毛の文

守河

凡

凡

四葉

四葉

あつたてのついでに... 守河文毛の文

凡

凡

凡

赤葉

赤葉

赤葉

赤葉

赤葉

あつたてのついでに... 守河文毛の文

秋雲

雲

雲

雲

内裏

あつたてのついでに... 守河文毛の文

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

月夜の星の光りあふる空の音
ねらふし家あまのまの光りしり
とや人の心の中へさすぬきの手
今いふまゝて文軍林よな御らあ
清いあけの光りあふる海
そ海

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

清いあけの光りあふる海
そ海

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

清いあけの光りあふる海
そ海

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

清いあけの光りあふる海
そ海

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

清いあけの光りあふる海
そ海

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

清いあけの光りあふる海
そ海

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

清いあけの光りあふる海
そ海

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

清いあけの光りあふる海
そ海

二
ふりそ
すそ

梅妻の妻のらふは人のあはれとてさすまふ
梅田のうらなうらなうらなうらなうらなうら
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

今春迄
ゆ集

首と云
三月迄

夏
秋
ゆ集

さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

言然
ゆ集

陣業

暁
信を社
ゆ集

陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら
陣業のうらなうらなうらなうらなうらなうら

永吉
天久
三吉
白

暁
ゆ集

ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら
ゆ集のうらなうらなうらなうらなうらなうら

暁
ゆ集

一

素書立

信立社
千之

別してあ...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

生仔
作意
牡丹

千之
千之
千之

...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

牡丹
紫花
芙蓉

二

千之
千之

...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

牡丹

千之
千之

...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

牡丹

一

素書立

千之
千之
千之

...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

牡丹
紫花
芙蓉

千之
千之

...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

牡丹

千之
千之
千之

...の...の...の...
...の...の...の...
...の...の...の...

牡丹
紫花
芙蓉

宗坂色
昌

子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千

宗坂
昌
子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千

宗坂色
昌
子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千
宗坂色
昌
子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千
宗坂色
昌
子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千

九

宗坂
昌
子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千

宗坂色
昌
子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千
宗坂色
昌
子一
リ
文部三信長
大御堂
宗坂
白河
七
隣
子
子
千

事社意

五徳集
直事書
公家
国書

千二

文

千二

口

社の人びとをわくさく入るにいのちをたもたすはめい
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
まめをいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに

文
五徳集
直事書

口

社の人びとをわくさく入るにいのちをたもたすはめい
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに

社野

五徳集
直事書
公家
国書

千二

文

千二

文

千二

文

千二

文

社の人びとをわくさく入るにいのちをたもたすはめい
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに
ゆるむにうらみおこるにうらみおこるにうらみおこるに

亞板条
二七頁

Handwritten text in Kuzushiji script, consisting of approximately 10 lines of cursive characters.

寄野郎意

野台

由蒙
御書
御書
御書

Handwritten text in Kuzushiji script, consisting of approximately 10 lines of cursive characters.

秋原

園侍

御書
御書
御書

Handwritten text in Kuzushiji script, consisting of approximately 10 lines of cursive characters.

文書
御書
御書

Handwritten text in Kuzushiji script, consisting of approximately 10 lines of cursive characters.

水色
遣水
泉

御書

Handwritten text in Kuzushiji script, consisting of approximately 10 lines of cursive characters.

御書

寧水魚

山菜

山菜

春水

山菜

浪

山菜

山菜

海魚

山菜

山菜

山菜の葉を煮て汁をとり

湯にかけると山菜の味

が立って山菜の葉を煮

て汁をとり湯にかけると

山菜の味が立って山菜

の葉を煮て汁をとり湯

にかけると山菜の味が

立って山菜の葉を煮て

汁をとり湯にかけると

山菜の味が立って山菜

の葉を煮て汁をとり湯

にかけると山菜の味が

立って山菜の葉を煮て

汁をとり湯にかけると

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜



他

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜の葉を煮て汁をとり

湯にかけると山菜の味

が立って山菜の葉を煮

て汁をとり湯にかけると

山菜の味が立って山菜

の葉を煮て汁をとり湯

にかけると山菜の味が

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

山菜

貴州地志

卷之二

七

八

九

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志

卷之二

七

八

九

十

十一

十二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

貴州地志卷之二

寄白侍意

江志

院夏

秋河

河内

河原

河原

河原

寄白侍意

院夏

秋河

河内

河原

河原

河原

河原

河原

河原

千三

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

千三

河原

河原

河原

河原

河原

河原

河原

亭田名

文乃
千々
千々

庭長がたつたてしつとていふまじりてあつた
あつたつとてその田の名にむきむらうが
いふその田のつれづれはとつとて田の名のつれづれ

田名
と名
牡丹花

秋田

文乃
千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

郡

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

中

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

宿

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

南

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

秋

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

梅

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

柳

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

雷

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

氷

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

社

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

社

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

寺

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

寺

千々

あつたつとていふまじりてあつた
あつたつとていふまじりてあつた

牡丹花

寺碑志

一里

白河

深草

之馬

石室

山本

山本

千七

寺碑志

深草

之馬

石室

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

市

永野

公家

白河

信立社

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

里侍

永野

公家

白河

信立社

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

千七

山本

山本

寄書

白鳥

七四

おき

千一

信社

千一

千一

千一

千一

千一

千一

千一

千一

あまのついでにうらたけをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

作

文庫

千一

千一

千一

千一

千一

千一

千一

千一

千一

あまのついでにうらたけをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

たけのこをたてしむるは

文の
子

おぼ
ろ

子
子

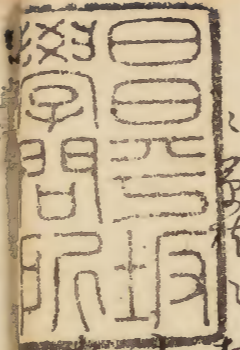
口

寄贈

園

秋

野



林

山

山

梅
花

四
代

宗
報

林
花

柏
玉

口

春
法

雅
法

柏
玉

口

後
文

Handwritten text in cursive script (sōsho) filling the right page, including various characters and phrases.



